

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第30週（7月25日～7月31日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 やや減少」

第30週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,189例であり、前週比7.4%減であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.39、2.86、0.68、0.36、0.29である。

RSウイルス感染症は前週比12%減の1,253例で、大阪市西部14.20、大阪市北部13.79、泉州8.25、堺市6.11、北河内5.64であった。

感染性胃腸炎は11%減の561例で、中河内4.90、南河内4.38、大阪市北部3.43である。

手足口病は45%増の133例で、中河内1.45、泉州1.30、大阪市東部0.86であった。

咽頭結膜熱は13%増の71例で、大阪市西部1.00、大阪市南部0.56、豊能0.52である。

流行性角結膜炎は36%増の15例で、中河内1.20、豊能0.60、三島0.50であった。

インフルエンザは45%減の57例で、定点あたり報告数は0.19である。中河内・大阪市南部0.48、泉州0.36であった。

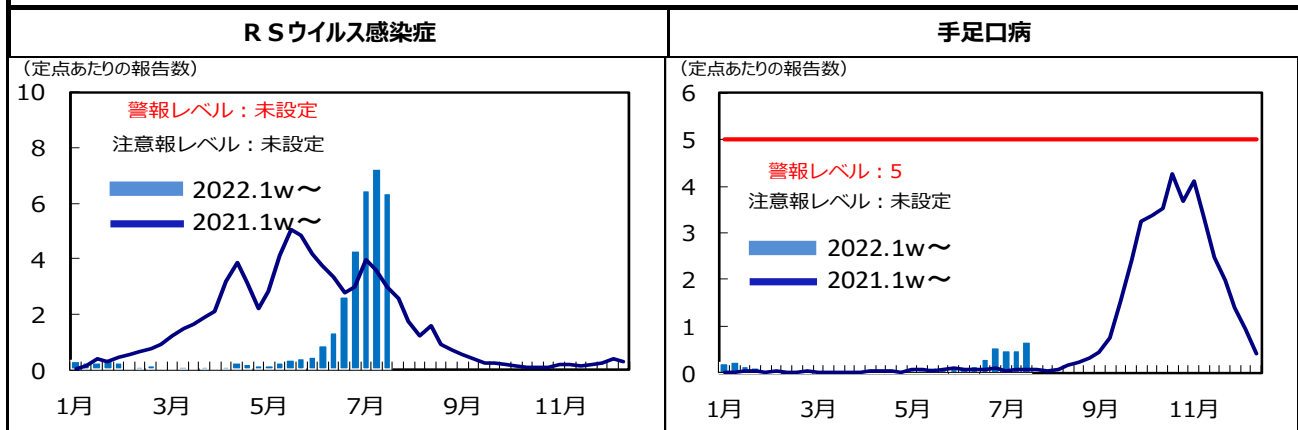


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第30週7月25日～7月31日）

第30週の順位	第29週の順位	感染症	2022年 第30週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第30週の 定点あたり 報告数	2022年第30週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	RSウイルス感染症	6.39	12%減	2.99	1歳_30%
2	2	感染性胃腸炎	2.86	11%減	2.66	1歳_18%
3	3	手足口病	0.68	45%増	0.06	1歳_32%
4	4	咽頭結膜熱	0.36	13%増	0.38	1歳_30%
5	7	流行性角結膜炎	0.29	36%増	0.08	20歳以上_60%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第30週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

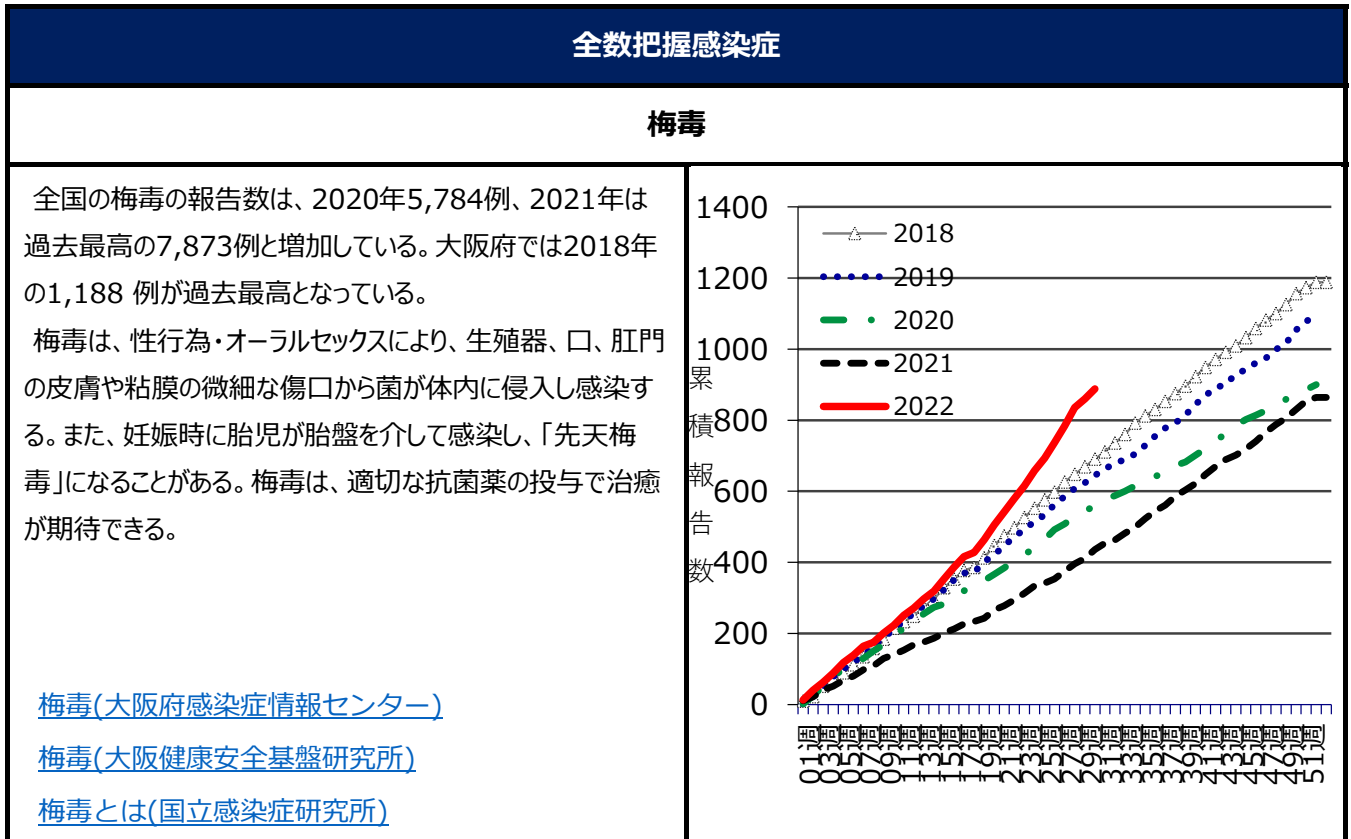


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第30週7月25日～7月31日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6		1	1				1	3	76
4類感染症	A型肝炎	1					1				3
5類感染症	アメーバ赤痢	2	1			1					26
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1						2	68
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1				52
	梅毒	28	2	2	1		1		1	21	888
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1					1				1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	140,365	2020年1月以降累計 1,371,134								
結核 (2022年6月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 528名、内 肺・喀痰塗抹陽性 194名)										

(2022年8月2日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)